



Emergency Watch NO. 44 Aug, 2014



神戸こども初期急病センター 2014年7月受診者数：2186人



訴え

- 1. 発熱 : 1412人 (1092人)
- 2. 咳嗽 : 673人 (198人)
- 3. 鼻汁 : 443人 (5人)
- 4. 嘔吐 : 337人 (109人)
- 5. 下痢 : 268人 (216人)

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

疾患頻度

- 1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 749人
- 2. 感染性胃腸炎 : 250人
- 3. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 110人
- 4. じんま疹 : 104人
- 4. ペンパンギーナ : 104人

☆ 今月のワンポイント ☆

7月は「記録的」という言葉があちこちで聞かれる一ヶ月でしたね。蒸し暑い毎日ですが、夏休みに入り、子供たちもますます元気に過ごされていることとおもいます。

さて7月の神戸こども初期急病センターへの受診患者さんの数は、6月に比べ若干増加し、2186名でした。夏風邪が大流行で、のどが真っ赤で40度近い高熱を出しているお子さんの受診が目立ちました。最も多い急性上気道炎・咽頭炎は749人と約三分の一が咽頭炎で受診されています。ヘルパンギーナは、喉に大きな口内炎のようなものができてしまう夏特有のウイルスの感染症で104人も患者さんが受診されていましたが、小さいお子さんでは食事や水分がとりにくくなり、辛そうでした。また、咽頭結膜熱（プール熱）というアデノウイルスによる感染症もよくみられました。これらの夏風邪は治療法がなく、熱や痛みに対し対症療法をするしかないのので、患者さんご家族も大変です。根本の治療薬や予防注射などができるようになればいいですね。一方喉が同じように赤く熱があっても、イチゴのようにはれた舌や扁桃腺についた膿（白苔、ハクタイ）がある場合はウイルスではなく、溶連菌という、ばい菌の感染症です。初夏から夏にかけて増加しますが、今年は例年に比べ少し患者数が多いようです。この病気は他の夏風邪のウイルス感染症と違い、抗生物質による治療がいりますので注意が必要です。夏風邪といわれたが、熱がなかなか下がらないときはもう一度受診し、みてもらうようにしましょう。溶連菌感染症では、適切な治療がなされない場合、溶連菌後腎炎といって血尿や蛋白尿が出てしまうことがありますので、注意しましょう。



暑い夏はまだしばらく続きますが、熱中症は適切な環境整備や水分補給で必ず予防できます。どうかくれぐれもみなさん、体調にお気をつけて、楽しい夏休みを過ごしましょう。

暑い夏はまだしばらく続きますが、熱中症は適切な環境整備や水分補給で必ず予防できます。どうかくれぐれもみなさん、体調にお気をつけて、楽しい夏休みを過ごしましょう。